『ますます励まし合おうではありませんか』 吉田真司

イエス様は息を引き取られる直前に大声でこう祈られました。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」(ルカ 23:46) と。このイエス様の十字架上の姿には、御子としての父なる神様への従順な姿が際立たせられています。それがルカ福音書の十字架上のイエス様の特徴でもあります。一方、マルコ福音書はイエス様の十字架上の叫びを記しています。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」

(15:34) という言葉です。イエス様は詩編 22 編 2 節の引用をなさったのではないかと、とは良く言われます。私は思います。大変な苦しみの時に「わが神よ」と祈り叫ぶことが出来る人は幸いだ、と。それは「信仰」そして「信頼」というものがとる一つの在り方だからです。私たちはこのイエス様の叫びに、詩編の詩人の信仰を重ね合わせて、そこに「疑い」ではなく、むしろ「信頼」を聴き取りたいと思います。

詩編 22 編の詩は、前半は「問い」ですが後半では「讚美」に転じていきます。注目するのは、彼は一人ではないということです。彼は「集会」の中にいます。おそらく彼は他の信仰者に囲まれながら、支え励まされたのではないのでしょうか。そして彼は確信をもって次のように言うのです。「主は・・・御顔を隠すことなく、助けを求める叫びを聞いてくださいます。それゆえ、わたしは大いなる集会で、あなたに賛美をささげ、神を畏れる人々の前で満願の献げ物をささげます」(同 22:25-26) と。ここに信仰者の経験が、それは他の信仰者に囲まれ、励まされる経験があります。詩編 22 編の詩人が「集会」の中で「問い」から「賛美」へ導かれたように、私たちもまた「集会」の中で歩み、共に悩んで、共に祈っていただき、共に主を信頼し賛美して生きるのです。ヘブライ書に「信頼しきって、真心から神に近づく」「言い表した希望を揺るがぬようにしっかり保つ」「互いに愛と善行に励むように心がける」「集会を怠らず励まし合う」といった具体的な勧めがあります。今年度の主題である「信仰によって励まし合う」の具体が示されているように思います。「かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。」(ヘブライ 10:25)

(4月18日受苦日礼拝宣教より)

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
		(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX 046 (274) 3708
 牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅